

第 55 回インナー大会・プレゼンテーション部門
企画シート

所属	杏林大学 木暮ゼミナール	
チーム名	クールキョーリン	
テーマ	若者投票率向上プロジェクト ～大学生の私達にできること～	
連絡先① (代表者)	代表者名	田端優也
	電話 自宅： _____ 携帯： _____	
	アドレス 携帯： _____ P C： _____	
連絡先② (副代表者)	副代表者名	杉田淳美
	電話 自宅： なし _____ 携帯： _____	
	アドレス 携帯： _____ P C： _	
参加者氏名	田端優也 辻裕介 戸丸太貴 三橋綾子 小山田涼 杉田淳美	
使用機材	主催者常備機材	(合計人数) 6 名
	<ul style="list-style-type: none"> PC(PowerPoint 2013) プロジェクター 	参加者持込(有)・無) <ul style="list-style-type: none"> ・クリッカー

1.問題意識

近年、若年層による投票率の低さが問題視されている。平成 21 年に行われた衆議院議員選挙では政権交代がおり、一時的に投票率が上がったが、それ以降、若年層の投票率は低下し続けている。とくに、平成 26 年に行われた衆議院議員選挙では、20～24 歳の投票率が 20% 台に落ち、過去最低を記録した。¹

一方、平成 27 年 6 月 4 日には、選挙権の年齢が 18 歳以上に引き下げられ、240 万人が新たに選挙権を持つことになった。今回の法律の改正により、若年層の意見が新たに取り入れられると考えられる。

しかし、18 歳引き下げになったとはいえ、18 歳の高校生は政治に関心を持つのだろうか？また、投票率は、向上するのだろうか？

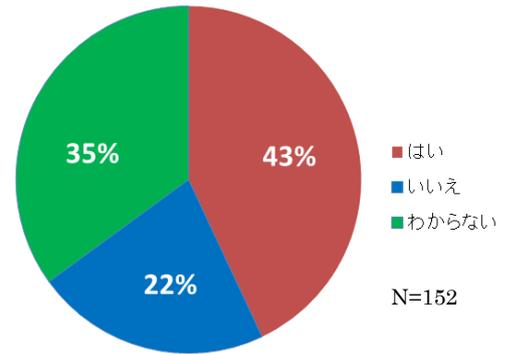
そこで、私たちは若年層、とくに新たに有権者となる若い世代の投票率向上に向けた提案を検討することにした。

2. これまでの活動と現状分析

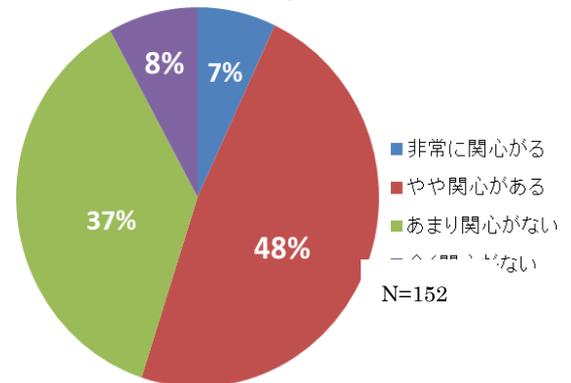
私たちが所属する木暮ゼミナールでは、選挙の度に出口調査を行ってきた。数か所の投票所で、独自の調査を実施してきたが、選挙での出口調査を経験し、改めて若年層が投票所に足を運ばない現実を知った。

こうした問題意識を背景として、選挙権引き下げによって、新たに有権者となる世代が選挙に対して、どのようなイメージを感じているのか、調査を行った。選挙権引き下げが決定してから約 1 ヶ月後の 7 月中旬に、JR 八王子駅周辺を中心として高校生 152 名にアンケートを行った。

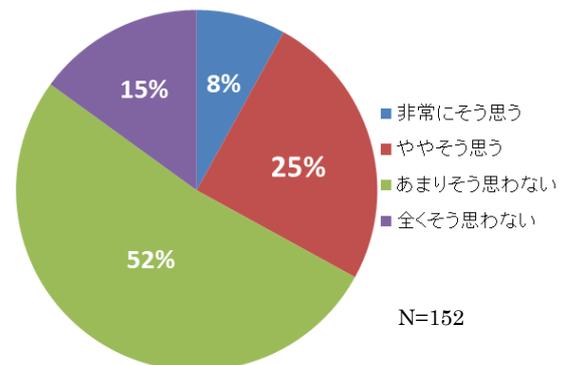
選挙に行くかどうか？



あなたは政治に関心がありますか？



自分の一票で政治を変えられると思うか？



高校生へのアンケート調査の結果、「選挙に行くかどうか？」の項目に関しては、「わからない」という回答が目立った。

「あなたは政治に対して関心がありますか？」の項目に関しては、「関心がある」「関心がない」の割合が半分に分かれた。

¹日本経済新聞より
http://www.nikkei.com/article/DGKKASFS04H3T_U5A300C1PP8000/

「自分の一票で政治を変えられると思うか？」の項目に関しては、「あまりそう思わない」と考える学生が半分以上を占めた。

つまり、選挙権を18歳に引き下げたとしても、若い世代の投票率が向上する可能性は低いと考えた。

3. 内容と提案

そこで、新たに有権者となる世代の投票率の向上に向けて、私たち木暮ゼミナール「クールキョーリン」は、高校生への「模擬投票」と「出前授業」の二つを提案したいと考えている。既に9月18日と10月15日に実施する予定だ。

まず、私たちは、ゼミ活動の一環として東京都羽村市の選挙管理委員会と協力し、平成26年11月に行われた羽村市産業祭において、模擬投票を実施した。ここでは主に、小・中学生を対象としていたが、選挙公報を作成し、選挙で使用される投票箱を用いた本格的な「選挙体験」を目指した。2日間で600名以上の投票が集まり、有権者教育の一環として成功を収めた。

こうした実績に基づき、12月には選挙管理委員会との共同企画として、東京都羽村高校をはじめ、いくつかの高校で模擬投票を実施していく予定となっている。

一方、模擬投票をするだけでは、選挙への関心を高めることは難しい。そこで、選挙に対する興味や感心、あるいは知識を高める必要がある。

選挙に対して「知識がない」「関心をもてない」という点が問題なのではないだろうか。

そこで、大学生による「出前授業」を実施したいと考えている

<出前授業の内容>

クイズ形式・グループワークでの体験である。座学ではなく、大学生と共に主体的に考える内

容を用意し、授業の後に投票、開票作業という一連の流れを体験することで理解を深めてもらうのが狙いである。これまでの模擬投票との違いとして、大学生と共にリラックスしながら選挙への知識を身に付けてもらうことを目指したい。

また、授業を通し、投票・開票作業も経験してもらうのも特徴である。実際に私たちは開票作業に携わったことで、どのようなシステムやルールで動いているのか知ることができ、選挙に関する知識をさらに高めることができた。

<模擬投票の内容>

この模擬投票の目的は、実際に身体を使って投票を体験してもらうためであり、選挙の大切さを若いうちに知って貰うためでもある。

そして、初めて選挙に行く前に、模擬投票をしておけば選挙に対する敷居が下がることになる。

出前授業と模擬投票の両方に共通する事として、自分の一票の価値を知れば、選挙の大切さと、自分が政治に直接関係していると実感できる。その実感が、意識改革に繋がると考えられる。

4. 今後の展望

羽村高校で実施し、その後羽村市以外にも杏林大学が提携を結ぶ八王子市、三鷹市の高校でも「出前授業」、「模擬投票」を本格的に実施したいと考えている。

選挙管理委員会、提携を結ぶ3市の他の大学とも共同しながら、若年層の投票率向上に向けたさまざまなプロジェクトを実現させていきたい。継続性として、現在行っている活動を後輩にも受け継いでもらう。最終的に地域単位で活動を行えるようにしていくことが目的である。